

多自然川づくり取組事例

タイトル：一級河川武茂川における多自然川づくりの取組みについて		
水系/河川名：那珂川水系 / 武茂川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：152	整備計画流量：450m ³ /s	セグメント：1
事業：維持管理	事業開始年度	令和4年度
目標設定：定性的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：その他		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：人材育成		

背景・課題、目標設定

<背景>

栃木県は、関東平野の北部に位置し、北部・西部・東部の三方を山地に囲まれ、中央から南に向けて平地が広がる地形をしており、県内各地が溪流釣りの名所となっている。そのため、鮎釣りや観光やなを目的として、毎年多くの方々が来県しており、水産資源は本県における重要な観光資源となっている。

河川工事の実施にあたっては、治水・利水機能と環境機能を両立させることが重要であるが、県内で実施されている河川工事の中には、環境への配慮が足りていない工事が見受けられる。また、土木関係者の視点で環境に配慮している現場であっても、水産関係者が望む施工となっていないなど、土木と水産で環境配慮にずれが生じていることが分かった。

そのため、多自然川づくりのありかたについて、土木関係者と水産関係者が垣根を越えた意見交換を行うため「多自然川づくり研修会」を開催した。また、研修会で学んだ事を現場に活かすため、一級河川武茂川において、堆積土除去工事と併せて寄せ石などの環境に配慮した施工を行った。

<課題>

- ・多自然川づくりの考え方が浸透していない
- ・土木関係者と水産関係者の環境配慮にずれが生じている

<目標>

- ・土木関係者と水産関係者が連携した多自然川づくりの普及

取組内容・対策例(1/2)

<多自然川づくり研修会の開催>

多自然川づくりの考え方が浸透していない、土木関係者と水産関係者の環境配慮にずれが生じているなどの課題があることから、多自然川づくりのありかたについて、土木関係者と水産関係者が垣根を越えた意見交換を行うため「多自然川づくり研修会」を開催した。



「多自然川づくり研修会」の開催状況(R4.11.14)

講師の方々

日本大学
安田教授馬頭高等学校
佐々木教諭近自然河川研究所
有川代表水産試験場
吉田主任研究員

取組内容・対策例(2/2)

<環境に配慮した施工>

一級河川武茂川において、堆積土除去工事の実施と併せ、自然環境に配慮した取組を行った。取組内容については、栃木県農政部や馬頭高等学校水産課、地元の漁業協同組合などの水産関係者と検討し、現地採取した自然石を活用して寄せ石や横工を行うこととした。



施工状況①

現状：護岸前面が洗掘
 対策：自然石を活用した寄せ石
 目的：護岸基礎部の保護
 多様な水際の形成



施工状況②

現状：瀬や淵が不明瞭
 対策：自然石を活用した横工
 目的：自然な瀬淵構造の創出

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<効果検証>

- ・多自然川づくり研修会の参加者を対象に、アンケート調査を実施した結果、これまで多自然川づくりを学ぶ機会が少なく、どう取り組めばよいか分からなかったとの回答が多くあげられた。
 - 「これまで多自然川づくりを学ぶ機会がなかった」と約6割が回答
 - 「多自然川づくりにどう取り組めばよいか分からなかった」と約6割が回答
- ・自然環境に配慮した施工を行った箇所において、施工の翌年度に効果検証を行った。
 - 早期に効果が発現するものではないため、今後長い目で検証を行っていく必要があるが、良い方向に変化している様に感じると参加者からの声があった



効果検証の実施状況(R5.8.24)

<今後の予定>

- ・多自然川づくり研修会を実施する予定であり、昨年度の座学に加え現地研修を行う予定。
- ・一級河川黒川において、自然環境に配慮した取組を実施予定。
 なお、取組内容については、8月25日及び10月24日に関係者と打合せをするなど検討を進めている。
- ・多自然川づくりが当たり前となるよう、関係者が連携し本取組を継続していく。



取組内容の検討状況(R5.8.25)



取組内容の検討状況(R5.10.24)

備考

問合せ先 栃木県 県土整備部 河川課
 電話番号 028-623-2444